

効果的に心情を表現する力を育てる国語科学習指導の工夫 — 読むことと書くこととをICTを活用して関連させる学習を通して —

三次市立みらさか小学校 大崎 友子

研究の要約

本研究は、読むことと書くこととをICTを活用して関連させる学習を通して、効果的に心情を表現する力を育てる国語科学習指導の工夫を考察した研究である。文献研究から、「効果的に心情を表現する力」を「自分が経験したことを言葉と結び付け、伝えたいことを選択し、語句がもつイメージや受け取る印象を考えながら、相手の状況に応じて語句を選択し、自分が伝えようとしている心情を相手に過不足なく想像できるように表現できる力」とした。この力を育てるために、読むことにおいて出会った心情を表す語句と、その語句と経験とを結び付けて作成した短文を蓄積したり、書くことにおいて蓄積した語句を使いこなすために吟味したりする過程を、ICTを用いて個別の「言葉辞典」「My辞書」を作成する学習活動を計画し、校内研修を実施した。効果的に心情を表現する力を育てるためには、個別の「My辞書」をICTを活用して作成し、語彙の蓄積や吟味をすることによって、読むことと書くこととを関連させる指導が有効であると分かった。

I 主題設定の理由

言語能力に関する課題について、教育課程企画等別部会「言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめ」（平成28年、以下「審議取りまとめ」と示す。）では、子供たちの人間関係の問題に、言葉によるコミュニケーションが深く関わっているとし、「子供たちには、他者の存在を意識しながら発信する力や他者に共感する力も身に付けさせる必要がある。」¹⁾と述べられている。児童にこれらの力を付けるために、自分の思いをただ言葉にして表現する力だけではなく、言葉を使って効果的に心情を表現する力を育てなければ、自分の思いを相手に分かりやすく伝えたり、相手の心情をより深く理解したりする力を十分に養えないのではないかと考える。また、効果的に心情を表現する力を育てるためには、意味を理解している語句の数を増やすだけではなく、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語彙の質を高めて、語彙を豊かにしなければならないと考える。

このことに関しては、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編（平成30年、以下「29年解説」とする。）の第1章2（2）学習内容の改善・充実でも、①に語彙指導の改善・充実が取り上げられ、語彙を量と質の両面から充実させることとされている¹⁾。

しかし、本校で採用している教科書では、心情を

表す表現を第5学年までに185語学習しているにも関わらず、所属校高学年の児童が日記の中で繰り返し使用している心情表現は「楽しい」「うれしい」「悲しい」などの表現にとどまっていた。さらに、これまでの自身の指導を振り返ると、文学的な文章を学習する際に、心情を表す表現に着目させることはあったが、既習の心情を表す表現を書くことの作文等に活用させる活動が不十分であったと考える。

そこで本研究では、「読むこと」の学習で理解させた心情を表す語句を「書くこと」の作文等の学習の中で使用させ、使いこなせる語句にし、語彙を豊かにすることで、効果的に心情を表現する力を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 効果的に心情を表現する力とは

(1) 心情を表現する力とは

井上尚美(1993)は、「子どもは、生活の中でいろいろ経験したことを言語によって意識化し、さらに抽象化・一般化することによってそれを知識・（科学的）概念として頭の中に定着させる。」²⁾と述べている。また、言語によ

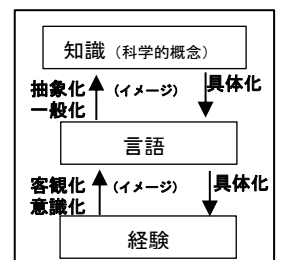


図1 経験、言語、知識の関係 (井上, 1993)

って知識・概念として定着したものを具体的な経験の場に下ろして適用・応用するという往復作業を行うとして、前頁図1を示している⁽²⁾。

楠見孝・米田英嗣ら(2007)は、経験した感情を言語表現することは、「自分があるいは相手が経験している感情を解釈し、言語的なラベルを貼る」ことだとし、他者が経験したことに対して、言語的ラベルを手がかりに感情経験を想起することを述べている⁽³⁾。

これらのことを基に、効果的に心情を表現する力のイメージを図2に示す。

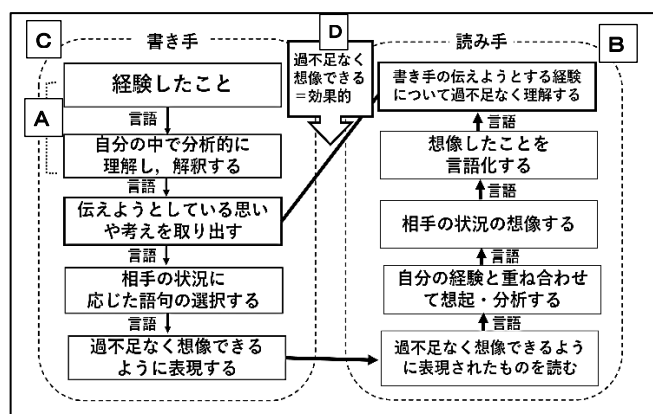


図2 効果的に心情を表現する力のイメージ図

書き手は、井上(1993)の述べる、言語による経験の意識化によって、自分が経験したことを分析し、理解することで、楠見ら(2007)の述べる、感情の解釈をしているといえる(図2[A])。また、井上(1993)の述べる、言語によって知識を具体化することで、経験の場に適用・応用させるということは、楠見ら(2007)の述べる、言語的ラベルを手掛かりに、感情経験を想起できることであるといえる。このことから、読み手は、書き手が表現したものによって、自分の経験と重ね合わせ、想起したり、分析したりすることを基に、相手の状況を想像する。それらを読み手が言語化することで、書き手の伝えたいことを理解することができると考える(図2[B])。

さらに、読み手は、書き手が表現されたものによって、理解を促していることから、書き手が、自分の表現したい思いや考えを取り出し、どのような語句で表現するかが重要である。

石黒圭(2016)は、「書き手と読み手の立場が異なると、語の意味はズレをきたす」ため、「異なる立場を想定する」³⁾と述べている。このことは、同じ語句でも、相手の状況に応じて、語句の意味に差が出るからこそ、自分の心情を伝えるためには、異

なった立場を想定し、相手の状況に応じた語句の選択が必要であるといえる。

これらのことから、心情を表現する力とは、自分が経験したことを言葉によって意識化することで、心情を分析的に理解し、解釈する。解釈した事柄から伝えようとする事柄を取り出し、相手の状況に応じて語句を選択したりしながら、表現する力であると考えられる(図2[C])。

(2) 効果的に心情を表現する力とは

鈴木一史(2019)は、言葉には自分が知っているイメージがついてくることを踏まえ、「どのような言葉で表現するかによって、伝えるイメージ、受け取る印象が変わる。」⁴⁾と述べている。また、今野真二(2017)は、「適切な語を適切なところ」で使うことを「一語だけ『重い』語を使うと、そこだけぴかぴかしてしまっ、全体からちぐはぐな感じの文」⁵⁾になることを述べている。つまり、同じ内容でも、行き過ぎた表現は伝わりにくく、不足した表現は、意味解釈に曖昧さが生まれるといえる。

このように、語句がもつイメージや語句によって受け手が感じる印象には、辞書の中で意味が同じであっても違いがあり、相手の状況に応じて語句を選択するとともに、読み手が過不足なく想像できるように表現をすることが求められる。つまり、書き手が伝えようとしている思いや考えなどの経験が、読み手に過不足なく理解された時、効果的に心情を表現できたと考えられる(図2[D])。

これらのことから、効果的に心情を表現する力とは、自分が経験したことを言葉と結び付け、伝えたいことを選択し、語句がもつイメージや受け取る印象を考えながら、相手の状況に応じて語句を選択し、自分が伝えようとしている心情を相手に過不足なく想像できるように表現できる力だと考えられる。

大西道雄(1996)は、日記指導における詳細の技術について、「類型的なことばを用いた表現では、対象のこまやかな表現やニュアンスは伝えることはできない。」⁶⁾と述べ、「多くの語彙の中から、適切な言葉を選択する必要」を述べている。また、高木まさきと宗我部義則(2019)は対談の中で、生活経験を伴い、実感のこもった言葉を使って表現できることの大切さを述べている⁽⁴⁾。

これらのことから、効果的に心情を表現する力を育てるためには、自分が伝えたい心情を表現できるだけの経験を伴った語句の量が必要であるといえる。また、使おうとする語句の意味や使い方に対する認識や、語句のもつイメージや受け取る印象を理

解することが、読み手に過不足なく想像できる語句の選択をするために必要だと考える。

これらのことから、本研究では、語彙を豊かにすることを通して、効果的に心情を表現する力を育てることを研究することとする。

2 語彙を豊かにするとは

(1) 語彙とは

「審議取りまとめ」⁷⁾ 及び今村久二ら (2017) ⁽⁵⁾ は、表1のように位置付けている。

表1 「語」「語句」「語彙」の違い

語	名詞・動詞・形容詞などや接続詞、助詞など。
語句	「語」から、熟語、複合語やひとまとまりで言い表す慣用句などの言い回し文までを含む総称的な言葉。その一つ一つのこと。
語彙	言語の基本となる単位の一つである語を、一つ一つの語としてではなく、個々の語が有機的な関係を持って集合する一つの体系としてとらえたもの。

「29年解説」でも、語彙を豊かにすることに関して、「語句の量を増すこと」と「語句のまとまりや関係、構成や変化について理解すること」の両面が必要であると示されている。つまり、「語彙を豊かに」というとき、単に語句の量が増えるだけではなく、いくつかの語句が意味や性質、役割によるまとまりをもつことを理解することで語句を体系付けてこそ、語彙と捉えることができると考えられる。

(2) 語彙指導とは

「審議取りまとめ」では、低学年の語彙力の違いが後の学力差にも影響を及ぼすと示されている⁽⁶⁾。

このことを受け、「29年解説」の第1章2(2)学習内容の改善・充実には、①として、語彙指導の改善・充実が挙げられ、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりとともに、語句への理解を深める指導事項が系統的に示され、これまで以上に重要とされている。

平成20年に告示された「小学校学習指導要領解説国語編」(平成20年、以下「20年解説」とする。)が示している「語句に関する事項」を表2に、「29年解説」が示している内容を表3に示す。

表2 「20年解説」の語句に関する事項の内容⁸⁾

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
該当なし	表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに興味をもつこと。 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

表3 「29年解説」の語彙に関する事項の内容⁹⁾

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

「20年解説」から「29年解説」の指導事項に加わったのは、「話や文章の中で使うこと」「語彙を豊かにすること」である。今村(2017)は、このことを、従来の『量的な拡充』と『豊かさ』とは、包含、または区別されている¹⁰⁾と述べていることから、語彙を豊かにすることが、単に語句の量的な増加を目指したものではないと考えられる。

語感については「20年解説」で「関心をもつこと」から、「29年解説」では、「意識して、語や語句を使うこと」と示し、「語感や言葉の使い方に対する感覚とは、言葉や文、文章について、その正しさや適正さを判断したり、美しさ、柔らかさ、リズムなどを感じ取ったりする感覚」と示している。また、田近洵一(2006)は、語感を「①語が人に与える感じ、語のニュアンス。②語に対する感覚、語に対するセンス。」¹¹⁾とし、語が人に与える感じ、または、人が語から感じ取るのはたらきも語感と述べている。

これらのことから、語彙指導とは、話や文章の中で使える語句の量を増すことと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの両面を充実させ、語のもつ、または語に対する正誤、適否、美醜などを感じ取り、適切に使えるような語感や言葉の使い方に対する感覚を養うことと整理できる。

(3) 語彙を豊かにするために

「29年解説」では、語彙指導の改善・充実について、次のように示されている¹²⁾。

語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけではなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである。

語彙の質とは、語句の意味や使い方に対する認識を深めることであるが、そのためには、語句のまとまりや関係、構成の変化を理解するための語句の量

が求められる。

このことから、語彙を量と質の両面から充実させるとは、量が増えた後、質が高まっていくような順序性があるのではなく、質を高める中で、語句と語句との関係、構成や変化について理解していくのであり、語彙の質を高めていくと同時に語句の量も増していくという相互に関わり合う関係があるといえる。つまり、語彙の量と質の両面が高まると、「使いこなせる」語句が増し、語彙が豊かになっていると考えられる。

また、達富洋二（2019）は、理解語彙（知っている語彙）を「使いこなす場面」を意図的に設定し、「使おうとする言葉のふさわしさ」を確かめさせることで、より語彙について深く考え、的確に表現することで、表現語彙（使える語彙）としての質を高められると述べている⁽⁷⁾。

これらのことから、語彙を量と質の両面から充実させるためには、「使おうとする言葉のふさわしさ」を確かめるため、語句を選択し、語句と経験とを照らし合わせながら吟味し、最も適切な語句を選択して表現に使用するというような、理解語彙を「使いこなす」場面が必要であると考えられる。

そこで、本研究では、語句に出会う「読むこと」と、使用する語句のふさわしさを吟味する過程が求められる「書くこと」とを関連させる学習について考察を深めていく。

3 読むことと書くこととをICTを活用して関連させる学習について

(1) 本学習の意義

ア 読むことと書くこととを関連させることについて

「29年解説」では、「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。」¹³⁾と示されている。

達富（2019）は、国語科の学習には、「言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている」からこそ学習材として成立することがあるとし、語彙量と語彙力が十分でなければ、言葉による見方・考え方を適切に働かせることはできず、また、言葉による見方・考え方を働かせることで語彙量と語彙力は増えていくと述べている⁽⁸⁾。さらに、今村（2017）は、語彙指導の機会や場について、「語を核にしながら、複合的な言語活動

を通して、言語で思考・認識を高めていく」学びの重要性を述べている⁽⁹⁾。

このことから、読むことと書くこととを関連させることは、児童が複合的な言語活動を通して、「言葉による見方・考え方」を働かせており、語句を核にしながら、言語により思考・認識を高める語彙指導の機会の一つであると整理できる。

甲斐睦朗（令和2年）は、語彙の習得過程を表4のように示している⁽¹⁰⁾。

表4 語彙習得のための過程（甲斐，令和2年）

段階	語彙の習得過程	説明
①	ある新出語句との出会い	単元の中での新出語句との出会いの段階。語句への興味・関心を抱き、辞書を引いたりノートに写したりする意識化をいう。
②	語のさまざまな面での学習	語句についての語構成・語源・意味などの学習する段階。
③	理解語彙としての学習	意味を確かめた語句を、本文の文脈の意味を探り、文章の中での働きを学習する段階。この学習によって初めて理解語彙に向かい合ったことになる。
④	認識・想像・思考	教材以外に広げて応用する段階。社会活動・人間関係などの認識に活用したり、「書くこと」の学習で使ったりすることによって、語句が次第に体得化される。
⑤	表現語彙としての習得	意図的に文章や話し言葉に使うことによって、自らの表現語彙に定着する段階。

表4①～③は、国語科の学習の中では、特に語句に出会う「読むこと」の学習である。表4④は、語句を教材以外で応用する段階であり、国語科の学習では、「書くこと」の学習であり、達富（2019）の述べる「使おうとする言葉のふさわしさ」を確かめる段階であるといえる。さらに表4⑤は、「書くこと」の学習を生かし、他教科や日常生活の場で表現に使用していく段階であるといえる。

これらのことから、効果的に心情を表現する力を高めるための学習指導の一つとして、「読むこと」の学習で、心情を表す語句に着目して、意味や働き、使い方等に注目して、語句を捉えたり問い直したりしながら文章を読むことと、「書くこと」の学習で、着目した語句の使い方等を吟味しながら使用する学習を関連させることは、語彙を豊かにすることに有効である。また、指導を関連させることは、甲斐のいう「語彙習得の過程」であり、「言葉による見方・考え方」を働かし、語句を核にしながら、言語による思考・認識を高めることであるともいえる。

また、このように両学習を関連させ、学習するごとに増加する、理解した語句の意味や働き、使い方等を蓄積し、語句の使い方を捉え直す度に更新することを可能にするためには、情報処理が容易なICTの活用が効果的だと考える。

イ ICTを活用することについて

松川利広（2017）は、語彙・語句の授業改善の提言の一つに、集めた語句を実生活において、体験、体現した記録を手書きとICTの併用で残していく試みや、語彙の差異の理解が深まり表現の幅が広がるために、低学年からの「私の類義語辞典づくり」を勧めている⁽¹¹⁾。

このことから、一般的な辞書に集録されている内容に加え、「読むこと」の学習で理解した語句と自分の経験を結び付け、児童自身が作成した短文を蓄積することで、語句に対する認識を深めさせるとともに、児童の学習の経験として蓄積される。また、蓄積した短文によって、「書くこと」の学習で語句の吟味を行うことは、自分の学習経験を活かした思考であると考える。この語句の吟味と蓄積の繰り返しが、児童一人一人の学習の過程の蓄積であり、自分の思考をたどりながら吟味する手立てになると考える。

そのために、学習には、蓄積した内容による語句の吟味、吟味した学習の過程によって行われる新たな語句の蓄積が、繰り返しできる媒体が必要である。よって、大量の情報の整理、更新に対応できるカスタマイズの容易さ、既習の語句を経年で蓄積するために、ICTの特徴や強みを活用した学習の工夫が効果的だと考える（図3）。

また、この学習の過程で、児童一人一人がICTを活用して個別に作成していく「言葉辞典」を「My辞書」とする。

(2) 「My辞書」について

先行実践から、言葉集めや類義語集めによる辞書作りは、効果的な表現の工夫や言語感覚を養い、語彙量を増やす契機になったという成果がある。一方で、課題として、集めた語彙を日常的に活用することの難しさが挙げられている。これは、辞書の例文

が自分の経験と結び付いておらず、「使いこなせる語句」になっていないためではないかと考えた。そこで、(1)と先行実践の結果を踏まえ、Microsoft Excel（マイクロソフト・エクセル）を利用して図4に示す「My辞書」を作成し、活用することとする。

「My辞書」には、三つの特徴がある。一つ目は、児童が語句を使用した経験から検索ができることである。検索は、ソート機能を利用し、語句（図4④）の他に、語彙を喜・怒・哀などの顔文字や、児童が頻繁に使用する語句（うれしい、悲しい等）からも調べられ（図4②③）、心情を表現するための手立てとなる。また、図4のように、「うれしい」と検索すると、蓄積した経年の語句が表示され、複数の似通った語句と語句を吟味する手立てとなる。一行に一つの語句の情報を整理し、検索が容易で、語句と語句とを比較しやすいようにしている。二つ目は、自分の経験と結び付けた語句を経年で蓄積できることである。本来の辞書の例文にあたる部分を自分の経験と結び付けて「My短文」として作成し、蓄積する（図4⑧）。同じ語句でも文脈によって別の意味で使用されている場合は、短文をその都度作成させ、セルを増やして蓄積させる（図4⑨）。他者の作成した短文も蓄積し、吟味の際の手立てとする（図4⑩）。また、児童が心情を表現するための吟味として候補に挙げた語句（図4⑪）や、使用を決めた理由（図4⑫）、使用した語句（図4⑬）、その語句を使用したことの効果や気づき（図4⑭）といった吟味の過程も蓄積させ、学習の過程を残すことで、次の吟味の足掛かりとさせる。三つ目は、語句と語句との吟味が自分の経験と結び付いていることである。「My短文」や蓄積した吟味の過程と、表現したいこととを比較することで、既習を基に自分の思考をたどりながら、吟味することができる。

このように、「My辞書」作りを通して、自分の経験と結び付けた語句の蓄積と吟味を繰り返すことで、語感や語句の使い方に対する感覚を高めていくことができると考える。

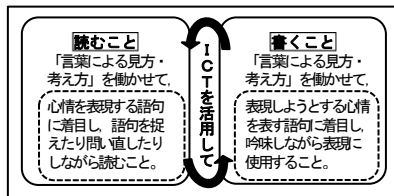


図3 読むことと書くこととをICTによって関連させることのイメージ図

学年	表情で	一言で	言葉	辞書の意味	辞書での使われ方	考えてみよう！		My短文		他の使い方 見つけたよ！	まよった言葉	選ぶ決め手	使った言葉	効果 気づき
						1回目	2回目							
4	(^-)	うれしい	うかれる	うきうきして心め落ち着かない	教材名 教科文	(影絵文より) 冬の閑土の中へずかえるは地上に出て、何を見て、どう感じたのだろうか。	(4年生) わたしは、4年生で、何にチャレンジしようかなと思つてうかれていました。	(5年生) 遠足が楽しみで、うかれてはしゃぎすぎた。	新学期になって、みんな嬉しくて、うかれています。(Aさん)	うれしい うちようてん				うかれるは、心が落ち着かない意味もあるから、きちんと説明して使いたい。
3	(^-)	うれしい	うちようてん	ひどく喜び、得になる。	教材名 教科文	物語の中で、中心人物がうちようてんになる場面はどこだろう。	(3年生) ぼくは、マラソン大会で一位になり、うちようてんだった。	(5年生) O君は、徒競走で一位になって、うちようてんが。		うれしい うかれる				自分ががんばったことで成功した時に使いたい。
5	(^-)	うれしい	声はずむ	うれしくて声が生きてくる。	教材名 教科文	「うれしい」と比べて、どのような感じがするだろう。	(5年生) 妹は「明日、ゲームが買ってもらえるよ。」と声をはずませて言った。		修学旅行の語句になるとみんな声はずむ。(Bくん)	うれしい うちようてん	うれしくて気持ちちはずんでいる感じがしたい。	声はずむ		O うれしいと書くより、喜んでいる感じ。
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	

図4 「My辞書」の画面（「うれしい」を検索した場合のイメージ）

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

「読むこと」の学習において、語句と自分の経験を結び付けて理解した語句を「My 辞書」に蓄積し、「書くこと」の学習で、蓄積した語句を検索、吟味しながら使用する学習を充実させれば、語感や語句の使い方を意識して、効果的に心情を表現することができるであろう。

2 検証の視点と方法

所属校の全児童が効果的に心情を表現する力を育てることを目指すが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係り、本研究では校内研修を通して、教職員への理解を図り、読むことと書くこととを関連させた授業展開における具体的な手立ての理解の深まりやICTの活用の有効性を検証することとし、視点と方法を表5に示す。

表5 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
1	効果的に心情を表現する力を育てるため、学習指導における具体的な手立ての理解の深まりは見られたか。	事前アンケート
2	「読むこと」と「書くこと」とをICTを活用して関連させることは、効果的に心情を表現する力を育てることに有効であったか。	事後アンケート 作文の採点

Ⅳ 校内研修の内容

校内研修の内容を表6に示す。

表6 研修内容

回	実施日	主な研修内容
1	7月8日	効果的に心情を表現する力について、共有し、そのための語彙指導について、理解する。
2	7月16日	「My 辞書」を活用した授業づくりについて、実践例を基に方法を理解し、「My 辞書」作りを取り入れた授業づくりを構想する。

Ⅴ 校内研修の分析と考察

1 効果的に心情を表現する力を育てるための学習指導における具体的な手立ての理解の深まりは見られたか

(1) 意識アンケートによる分析

研修前に、効果的に心情を表現する力を育てるために、これまでの指導で意識したことについてアンケートを実施した。結果を表7に示す。

表7 事前意識アンケート結果 (n=13) %

項目	つねに	教材によって	注目したいがさせていない	していない
「読むこと」の指導において、効果的に心情を表現している部分に着目させた。	31	69	0	0
「読むこと」の指導において、効果的に心情を表現するために使用されている語彙について注目させた。	23	77	0	0
「書くこと」の指導において、効果的に心情を表現する力を育てることを意識して指導した。	8	61	31	0
「書くこと」において、効果的に心情を表現している語彙に注目させた。	16	61	15	8

研修では、両領域を関連させる授業展開について、「My 辞書」を使用した教材研究として、付けたい力の育成を焦点化して指導するための、語句への着目の仕方や授業展開について、共有を図った。授業展開についての研修内容において「My 辞書」で活用した部分を図5に示す。

まず、「読むこと」の学習との関連 (a) では、「大造じいさんとガン」の教材で使用されている笑うことを表す四つの語句を全て「笑う」に変えることの是非を考えることで、四つの語句の意味を比較したり (1)，文脈での働きを捉えたりしながら、語句の使い方から話の展開を捉えた。また、語句について理解したことを生かして、語句と語句の使い方の違いが分かるように短文を作成し、「My 短文」に蓄積した (2)。

学習の位置付け	a	「読むこと」の学習		b	「読むこと」の言語活動における「書くこと」との関連				c	「書くこと」の学習			
「My辞書」の特に活用する部分	【語句の蓄積】			【語句の検索、語句の吟味】				【語句の検索、語句の吟味、吟味の蓄積】					
	1			3				4					
	言葉	意味	My短文	学年	一言で	言葉	意味	My短文	言葉	まよった言葉	選ぶ決め手	使った言葉	効果
	金心のえみ	物事がうまくいって、心ゆかにこころするこ	女の人がお祭りで、作戦通り金魚ついで、たくさん金魚がつかれて、金心のえみをうかべる	4	人物	ゆうかん	何事もおそれないで、勇ましいようす。	もたもたうは、これい魂をおそれず、ゆうかんが戦つ。	うきうきする	うきうき	うきうきは、楽しみな時で使う。		
	にっこり	口に出さないうで、明るく笑顔を作る様子。	女の人がお祭りで、わたあめを食うにっこりする。	5	人物	すがすがしい	さわやかで気持ちがいい。	はつきりした声であいさつをし、きびきり動く〇〇君は、見えていきすがすがしい。	うれしい	うれしい	うれしきは、うれしきレベル60%くらゐ。		
晴れ晴れ	気持ち明るく、すっきりしている様子。	女の人がお祭りの盛装した女で優勝し、晴れ晴れとした顔つきになる。	6	人物	たのもし	たのみになりて、見る人、心強い。	病は、頼も服を自分で作ていて、頼もしい。	目がかがやく	目がかがやくくらい、特別な感じがするから。	〇			
			2	人物	やさしい	思いやりがある。	ちいさの〇〇さんは、やさしい。	よるこ	うれしい	何と喜んで、どんな気持ちになつたかを、書くといふ。			
	単元で出会った語句について、辞書の意味を踏まえ、文脈上での動きを捉えたことを生かして、自分の経験と結びつけた「My短文」を作成し、蓄積する。			「人物」という語彙で検索し、語句と語句とを、既習の「My短文」をもとに比較し、吟味を行う。				「書くこと」で吟味した思考の過程（選択理由、使用した語句、使用の効果）を蓄積する。					

次に、「読むこと」の言語活動における「書くこと」の学習との関連〔b〕として、「My辞書」に蓄積した語句から表現したい語彙を検索し、語句の吟味を行った〔3〕。具体的には、言語活動として設定した「登場人物プロフィールカード」を作成することとし、教師のモデル文に記述された「大造じいさんがやさしい」の「やさしい」は適切か、より適切な語句はないか「My短文」をもとに、語句の吟味を行った。そして、「書くこと」の学習との関連〔c〕では、場面や出来事を設定した作文の文章を辞書的な意味と「My短文」を活用した語句の検索と吟味によって、効果的に心情が表現できるように書き直した。また、吟味した過程を蓄積し〔4〕、次の検索と吟味へ生かすようにした。

研修後に行った、効果的に心情を表現する力を育成するために有効だと考えられる指導についての意識アンケートの結果を表8に示す。

表8 事後アンケートによる有効であると考えられる指導 (n=12) %

項目	とても	思う	分らない	思わない
「読むこと」と「書くこと」とを関連付けた指導	92	0	8	0
「読むこと」の学習で出会った語彙を「書くこと」の学習で積極的に活用させる指導	84	8	8	0
「書くこと」の指導において、語彙に着目させる指導	58	42	0	0

肯定的評価の向上は、両学習を関連付けさせる授業展開の具体例から、付けたい力を焦点化し、語句に着目することで、読むことの理解を促すとともに、書くことに汎用できるという実感が伴った結果であると考えられる。

(2) 事前、事後の添削内容による分析

「書くこと」の学習において、効果的に心情を表現させるために、語彙に着目した指導の手立てを検証する。そのために、事前、事後で作文の添削を実施した。添削の際の着目点を示す。

事前、事後添削結果の着目点		
	事前	事後
着目する点	苦手なことをしないといけ ない「不安」と、本番を前に して緊張している「不安」の 違いに着目している。	初めて知ったことに対する「びっ くり」、目の前で起きていること を見て感じた「びっくり」、予想外 のことに会った「びっくり」の違い に着目している。

また、A教諭の事前、事後の添削内容を「語彙」に係る指導に着目して考察し、図6に下線で示す。それぞれの下段がA教諭の添削内容である。

【事前】 学習発表会

昨日、学習発表会がありました。私は、たくさんの方の前で発表することが苦手です。だから、学習発表会の前日はあまり眠れなかった。私は歌もリコーダーも演奏も苦手で、リコーダーは、前日までたくさん練習したけれど、うまく演奏できない部分もありました。とても不安でした。学習発表会は嫌だなあと思いました。

どうしようか本番になりました。ステージで準備をしていると、不安でした。すると、私の隣にいた太田さんが、「楽しんで歌おうね。リコーダーは失敗しても気にせず、流れに合わせて演奏したらいいよ。一緒に頑張ろうね。」と声をかけてくれました。太田さんの言葉で、「楽しもう」という気持ちになって、あつという間に発表が終わりました。気が付いたら、会場から大きな拍手の波が押し寄せていました。「やったぞ」という気持ちになりました。次の六年生の学習発表会も頑張ろうと思います。

★ずっと不安な気持ち
◎発表中の様子や気持ちも書けたらいいね。

【事後】 社会科見学

五年生のみんなが社会科見学に行きました。マツダの自動車工場を見学しました。車を作っているところを見るのは初めてだったので楽しみました。みんながバスに乗って行きました。はじめて、会社の歴史や作っている車のについての説明を聞きました。マツダミュージアムには、エンジンが組み立てられている模型がありました。知らないことが多かったのですが、よく分かった。展示を見てびっくりしました。次に実際に車を作っている工場の中を見学しました。車がつり下げてあって、川が流れて、その流れてきた車に工場の人たちが部品を取り付けていました。すごびっくりしました。工場の人、作業はよくするだけではなく安全のためにすぐ気を付けていることも分かりました。すごいなあと思いました。また行きたいです。

★目を丸くしました。
◎特にびっくりしたことを〇〇です。

図6 A教諭の事前、事後添削の比較

文中の◎が語彙に着目した助言、★が語句の入れ替えの提案を示す。図6からは、事前で、「発表中の様子や気持ちも書けたらいいね。」という助言に留まっていた添削が、事後では、三つの「びっくり」の心情の違いを分析し、「特にびっくりしたことは〇〇です。」と驚きの度合いを書くように促している。また、「My辞書」を利用して、「驚く」や「すごい」等、それぞれの心情を表す語彙から、適切な語句を選択し、語句の入れ替えを提案したりしている。他の指導者にも「My辞書」の検索機能を使用して、「驚く」という語彙を吟味し、語句の入れ替えの提案をする姿が見られた。このことから、児童が「書くこと」の学習において、効果的に心情を表現するために、指導者が「My辞書」を使用して、児童に語彙の選択の適切さを吟味するように促すことは、指導の手立てとして有効であるといえる。

(3) 研修の内容による分析

研修では、作文等、書くことで使用させたい語句を、担当学年別で集約した。結果、発達段階を考慮しながら、「心がおどる」や「ときめく」、「感銘を受ける」など、心情を表現するために児童に吟味させたい語句が挙がった。複数の似通った語句の集約は十分に行えなかったが、指導者自身が語句に着目する契機になった。

2 読むことと書くこととをICTを活用して関連させることは、効果的に心情を表現する力を育てることに有効であったか

読むことと書くこととをICTを活用して関連させることは、効果的に心情を表現する力を育成することに有効であるかについて、事後意識アンケートを実施した結果を表9に示す。

表9 効果的に心情を表現する力を育てるために、「読むこと」と「書くこと」をICTを活用して関連させることの有効性についての意識アンケート結果 (n=12) %

	項目	とても	思う	分らない	思わない
1	「読むこと」と「書くこと」を関連付けるために「My辞書」作りをすること。	50	33	17	0
2	「My辞書」を作ることにICTを活用すること。	92	0	8	0

また、項目1、2における自由記述の内容を次に示す。

「分らない」と回答した指導者

・シラバスに位置付ける際の時間配分の工夫が必要。

「思う」と回答した指導者

- ・使える語彙を増やすためには、やはり多くの文章を読んでいく、文章に触れ親しむことが大切だと思う。文章・作文の中身に見合わない大きな表現になりすぎてもおかしいと思う。
- ・しっかり（語句を）使った上で、辞書にする。
- ・辞書に入っていない言葉をどうするか。言葉の広がり制限してしまわないようにしたい。

「とても思う」と回答した指導者

- ・文章を推敲しながら語彙を増やすこと。
- ・知識・技能の習得時間を圧縮する等、学習活動の精選が必要。

項目1に係る自由記述

- ・使う際に学年毎に調べられるようにする。【検索のしやすさ】
- ・文章を書く際にすぐに使えるようにする。【検索のしやすさ】
- ・自分専用とみんなで使える用を作成。【蓄積のしやすさ】
- ・小学校で蓄積した「My辞書」を中学校で活用すること。【時間的制約を超えること】
- ・「My辞書」の内容を精選し児童が選択しやすいようにする。【カスタマイズの容易さ】

項目2に係る自由記述

これらの意見から、読むことと書くこととをICTを活用した「My辞書」によって関連させることは、効果的に心情を表現するための指導、助言に有効であると分かった。また、「My辞書」に蓄積するまでの過程の重視、語句の吟味という思考・判断の学習時間確保のための活動の精選が重要である。

Ⅵ 研究のまとめ

○児童に効果的に心情を表現する力を育てるため、読むことと書くこととをICTを活用した「My辞書」作りにより関連させることは、指導者の手立ての一つとして有効であると分かった。

○所属校では、一人につき1台、タブレットを使用できる環境にある。来年度から「My辞書」を作成し、高学年の国語の授業での短歌の創作や作文指導で活用し、徐々に低学年に広げていきたい。

○自分以外の人が同じ体験を、全く同じ語句で表現しているわけではないことに気付かせ、語感や語句の使い方に対する感覚を養うために、他者の作成した短文も「My辞書」に蓄積して、自分が表現する時の語句の吟味の材料としていく。また、心情を表現する語彙以外への広がりや他教科への汎用性、中学校での継続した「My辞書」の使用のための工夫を考えていく。

【注】

- (1) 文部科学省（平成30年）：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』東洋館出版社p. 8に詳しい。
- (2) 井上尚美（1993）：『＜国語教育ブックレット＞レトリックを作文指導に活かす』明治図書pp. 116-118に詳しい。
- (3) 楠見孝・米田英嗣（2007）：『感情と言語』『京都大学学術出版会』p. 55に詳しい。
- (4) 高木まさき・宗我部義則（2015）：『これからの時代を担う子どもたちに』『国語教育相談室No. 162』光村図書出版p. 10に詳しい。
- (5) 今村久二・中村和弘編（2017）：『シリーズ国語授業づくり語彙一言葉を広げる』東洋館出版社p. 10に詳しい。
- (6) 文部科学省（平成28年）：『言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめ』p. 11に詳しい。
- (7) 達富洋二（2019）：『語彙学習 理解語彙と表現語彙、そして表現準備語彙・語彙単元での語彙学習』『教育科学国語教育No. 836』明治図書出版p. 92に詳しい。
- (8) 達富洋二（2019）：『語彙学習 学びを深める語彙学習語彙学習の年間指導計画と六つの学ぶ機会』『教育科学国語教育No. 832』明治図書出版p. 93に詳しい。
- (9) 今村久二・中村和弘編（2017）：前掲書p. 30に詳しい。
- (10) 甲斐睦郎（令和2年）：『小学校国語 語彙に着目した授業をつくる』光村図書p. 9に詳しい。
- (11) 松川利広（2017）：『「語彙・語句」の『・（中黒）』の意味を考える』『実践国語研究No. 810』明治図書出版p. 34に詳しい。

【引用文献】

- (1) 文部科学省（平成28年）：『言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめ』p. 3
- (2) 井上尚美（1993）：『＜国語教育ブックレット＞レトリックを作文指導に活かす』明治図書pp. 116-118
- (3) 石黒圭（2016）：『語彙力を鍛える 量と質を高めるトレーニング』光文社p. 33
- (4) 鈴木一史（2019）：『国語教師のための語彙指導入門』明治図書出版p. 19
- (5) 今野真二（2017）：『大人になって困らない語彙力の鍛え方』河出書房新社p. 74
- (6) 大西道雄（1996）：『日記文』の作文技術 国語教育研究所著『作文技術 指導大辞典』明治図書pp. 166-170
- (7) 文部科学省（平成28年）：前掲書p. 11
- (8) 文部科学省（平成20年）：『小学校学習指導要領（平成20年告示）解説国語編』東洋館出版社p. 25
- (9) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 22
- (10) 今村久二・中村和弘編（2017）：『シリーズ国語授業づくり語彙一言葉を広げる』東洋館出版社p. 16
- (11) 田近洵一（2006）：田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典第四版』教育出版p. 22
- (12) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 8
- (13) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 12